

まもる通信



活力ある地域社会と人のふれあい
ともにいっしょに



寺田守 後援会だより

発行:寺田守後援会
会長 鈴木昌二
袋井市久能1810-11
TEL:(44) 1351

✉ mamorut@yr.tnc.ne.jp

vol.7
2011.1

市議会 はいらいと

12月議会

- ①一般会計補正予算として4億6800万円、追加2億2170万円、計6億8970万円を可決しました。この中には、緊急雇用促進事業など国の交付金があり、住宅耐震工事への助成8800万円、市道の舗装補修工事2581万円をはじめ、小・中学校、公民館などの設備に当てられることになりました。
- ②特別会計(国民健康保険、後期高齢者医療、公共下水道事業)の補正予算が承認されました。
- ③月見の里、風見の丘(4月供用開始)施設の使用について、市条例の改定、及び制定がありました。この中で60歳以上の利用者の料金について、一部料金の見直しがありました。

例:「月見の里」共通券(プール・トレーニングルーム利用)の場合
大人600円、60歳以上又は中学生以下300円(平成23年4月1日から)



合併5周年にあたる平成22年度も、いよいよ大詰め段階に入りました。5月には南部地区の拠点としてメロープラザが建設される一方、旧浅羽地区は適用外であった都市計画税も全市均一に施行されることになりました。また、風見の丘や掛川・袋井新病院の建設が急ピッチで進められており、袋井駅舎・南北自由通路の計画も具体化してきました。これから合併の成果が、本当に試される時を迎えることになりそうです。

←正月、参拝客で賑わう可睡齋。



完成間近かの(仮)袋井警察署

4月供用開始に向け、(仮称)袋井警察署の庁舎の建設が進んでいます。敷地面積は5136m²、建物は、RC構造4階建て総面積約3500m²、総工費は約14億8000万円となっています。

警察署の設置は、当市の永年の悲願でもありました。今回、袋井警察署は磐田警察署から分離し、袋井市、森町全体を管轄する警察署として誕生することになります。

両市町の面積は合わせて約241km²、人口は約10万7000人、管轄する警察署の所員は120人程度です。森警察署は分署となりますが、これまでの管内の交番など警察施設は、そのまま新しい警察署に引き継がれることになります。

免許の更新や道路使用、各種出展等の届出は、これから新警察署の開設で便利になります。またこれを機に、決して低くない管内の犯罪減少や交通事故防止にも繋げて行きたいものです。

◆事件・事故の発生状況(平成21年袋井市)

内容	件数	10万人当り発生数
刑法犯認知件数	830人	ワースト17位
人身事故数	775人	ワースト17位
(死者)	(6人)	
(傷者数)	(1191人)	



市政の課題

1 現袋井市民病院の利活用



↑利活用が求められる現袋井病院。



↑造成工事が進む掛川・袋井新病院。

掛川・袋井新病院建設が進む一方、現在の袋井市民病院をどのようにしてか、今後の利活用が大きな課題として浮上ってきています。

新病院は、この地域の2次医療を担う病院としてその役割が期待され、特に脳疾患、心臓疾患などの急性期医療について専門性の高い病院機能を担うことになっています。また、より複合的で高度医療が必要な3次医療は、浜松医大や聖隷病院などが受け持つことになります。

そうすると、これからこの地域で必要な医療機能は、日々の市民の健康を支える予防医療、入院や手術などが伴わない医療（1次医療）、入院や手術後の回復期を支える介護医療が必要になってくる、とされています。現在この役割を市では、「保険・医療・介護」構想としてまとめ、これを新病院開設後の現市民病院に担ってもらおうと計画しています。

市では今後、現在の病院建物が耐震を含め今後の利活用にかなうものであるかどうか、調査していくことになります。また、この「保険・医療・介護」構想を予算との折り合いを付けながら、更に具体化し精査していくことになります。この現病院の利活用については、特別委員会を設けていきますので、今後確りとした審議をして行きたいと思えます。

2 待機児童の解消に市中央部保育所

働くお母さんの増加、また核家族化の進行と言った社会の変化の中で、子供を預けたくても預けられない待機児童が問題となっています。これを解決するために、保育所の増設が求められているわけですが、一方で急な需要増にこたえられていないのが現状です。

当市では、これまで10箇所の認可保育所を設けてきました。また、この4月には愛野保育園の開園を予定し、更に翌年の平成24年4月には（仮称）市中央部保育所を開園し、解消に努めることになりました。

計画されている中央部保育所の保育人数は120名、場所は北地区の久能地域で若葉幼稚園の北側、市道・村松山科線の南側で、約8000m²用地に建設されることになっています。

保育所を運営していく事業団体は、浜松市に本社をおいている（株）あそび学園で、土日祝祭日、夜間保育なども手掛けている団体です。

待機児童の人数は、潜在的な人数もあり明確になっていないところもありますが、昨年4月現在で42人、これを平成25年度には0を目指す計画となっています。



↑近く工事が行われる中央部保育所の建設予定地。

公共下水道の整備は 計画通り進展しているか



質問 今年度の下水道の管渠築造工事、及び設計委託事業は計画通り進んでいるか。生活廃水が、農業用水に影響している地域もあるが、優先順位の考え方は。

回答 築造工事は11月末時点で進捗率78%、設計委託は国・県の交付金が見込まれた段階で着手したい。優先順位については、農業用水への影響も考慮し進めていきたい。

←公共下水道の遅れは農業用水にも影響。

交通事故多発地点への 事故防止対策は



質問 市で作成した「交通事故ピンマップ」には6箇所の事故多発地点が記されているが、事故防止対策は進んでいるか。

●当市の交通事故多発地点

JA袋井営農センター東交差点、袋井IC北交差点、国道150号線湊東交差点、袋井商業高校南交差点、国道1号国本交差点、袋井土木事務所北交差点

回答 ポスター370枚、チラシ4300枚を作成して市民に注意を呼びかけた。交通事故多発地点については、道路環境の改善など対策も現在進めている。

←重大事故が絶えない国本交差点。

ベトナムとの交流事業の 今後の展開は



質問 11月に浅羽佐喜太郎氏没後100年、ファン・ボイ・チャウ氏没後70年の記念事業がベトナムで開催されたが、今後の市として交流事業の継続をどのように考えているか。

回答 記念事業を通じて新たな状況も生まれてきている。今後どのような市民交流、文化交流が必要か、関係団体とも協議し、検討していきたい。

←11月3日フエ市で行われた「日越友好の碑」の除幕式。

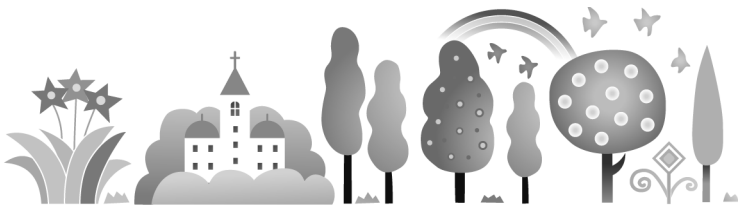
常林寺浅羽佐喜太郎公紀念碑→



浅羽梅山にある常林寺には、ベトナムの独立運動の指導者、ファン・ボイ・チャウ氏が地元の人々の協力を得て建立した「浅羽佐喜太郎公紀念碑」が現存しています。この碑は、日本国内での独立活動「東遊（どんずう）運動」が挫折し苦境に陥ったとき、これを援助した浅羽出身の医師、浅羽佐喜太郎氏の恩を偲んで建てられたものです。ここには、「たぐいなき義侠のお方である」といった碑文が漢文で刻まれています。

☺みんなの力で住み良いまちをつくろう

まちがどウォッチング



袋井商業グラウンドに雨水貯留施設

袋井商業高校のグラウンドで雨水を一時的に溜める施設の建設が進んでいます。商業東側は低地となっており、大雨の際には道路が冠水するなどの問題が指摘されています。今回の施設は、最大1,290m³の雨水の貯留が可能で、時間差で徐々に下流に放出するようになっています。グラウンドへの影響は、降雨終了後には排水が完了するよう設計されています。



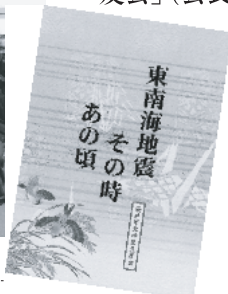
↑袋井商業高校の雨水貯留施設。



↑久友会の皆さんと発行誌→

久友会で東南海地震体験記を発刊

北地区の中久能、下久能、天神町(旧:久能向)の老人会「久友会」(会長:鈴木伸一さん)が「東南海地震 その時 あの頃」と題する冊子を出版されました。この冊子には、久友会のメンバー20人が原稿を寄せられ、太平洋戦争末期の東南海地震、食糧難や空襲体験を綴っています。また、今では忘れられた旧久努西村を唄った歌詞、方言集なども掲載されて、思わず懐かしさが込み上げる内容となっています。



コスモス咲く久野城址でウォーカーを接待

第5回を迎える「東海道どまん中ふくろいツーデーウォーク」が、11月20日、21日の両日、1700人と多くのウォーカーが参加者して開催されました。この日はいずれも秋晴れ、中継所になった久野城址ではコスモスの花が最後の彩を添え、ウォーカーの目を楽しませました。大手門跡の付近に設けられたテントでは、地元や久野城保存会の人達が参加者を出迎え、甘酒やお茶の接待を致しました。



↑久野城址での中継所風景。



↑各自治会で工夫された防災訓練。



市内各地で地域防災訓練

12月5日(日曜日)、市内156の自主防災隊、消防団などが参加して地域防災訓練が行われました。東海、東南海、南海の3連続地震の発生も想定される中、各自治会では多くの人々が参加して工夫を凝らした訓練が実施されました。地震対策では、地域を主体とした「共助」の重要性が見直されています。地域で支えあう体制作りを今後も作って行きたいものです。

交通安全で県知事表彰

「袋井市交通安全母の会」の会長・小倉幸子さんが、交通安全活動に永年尽くされたと本年度、県知事表彰を受賞されました。小倉さんは、市交通安全会連合会女性部長として20年前から活動され、現在は県交通安全母の会連合会の副会長も務められています。子供たちへの接し方で一番大切なことは、何よりもまず「挨拶」と言うことでした。



↑国1バイパス付近で交通指導にあたる小倉さん。